

S/F REAL4

Q&A

【工区・塗装】

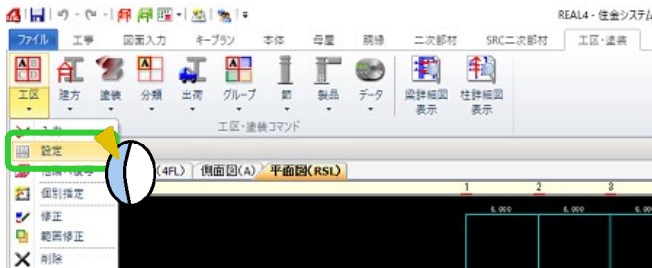
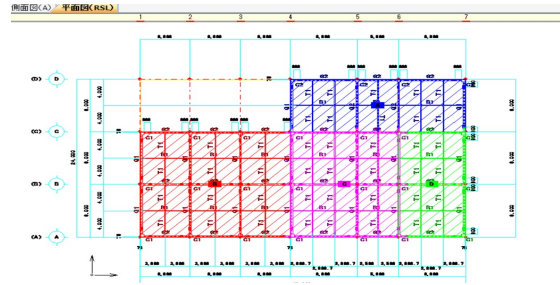
 あいホールディングスグループ 
株式会社 **ドットウェル** ビー・エム・イス

DATA LOGIC

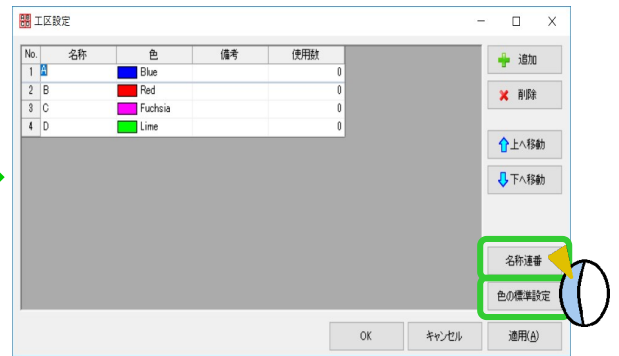
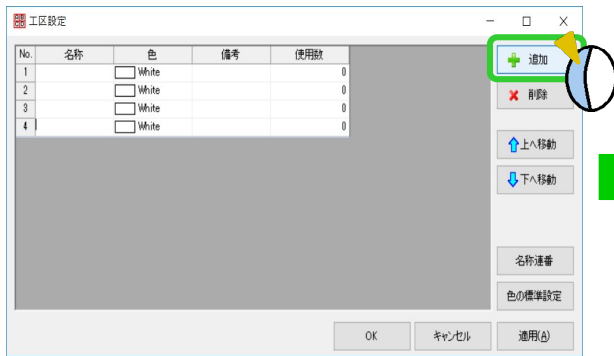
工区を設定したい！


工区・塗装画面から設定します。

【工区・塗装】 - 【工区】 - 【設定】をクリックします。

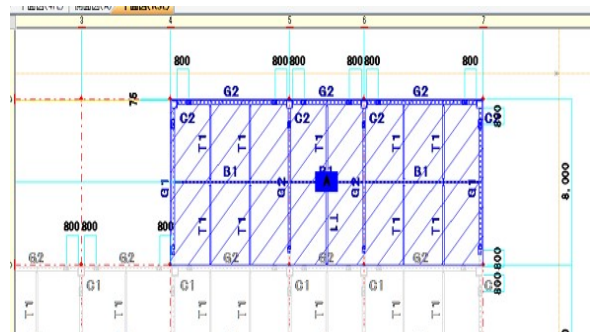
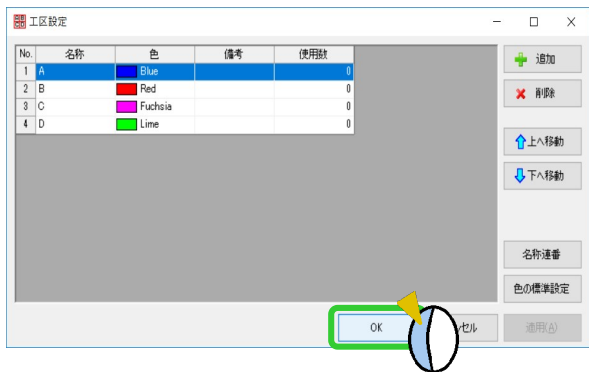


設定したい工区数の分、【追加】をクリックします。(今回は4つの工区を設定するため4回クリックします)
 No.1に名称を入力し【名称連番】をクリックすると、No.1以降の名称が自動的に連番で入ります。
 色は【色の標準設定】をクリックして設定し、OKをクリックします。



 名称連番が使用可能なのはアルファベット数字のみです。直接名称を入力することにより個別に名称を設定することができます。
 色も色の標準設定を使用せずに直接指定することで個別に設定することができます。

工区設定をしたら【工区】 - 【入力】をクリックし、各工区範囲を右ドラックで範囲選択します。
 再度、工区設定画面が出てくるので名称を選びOKします。

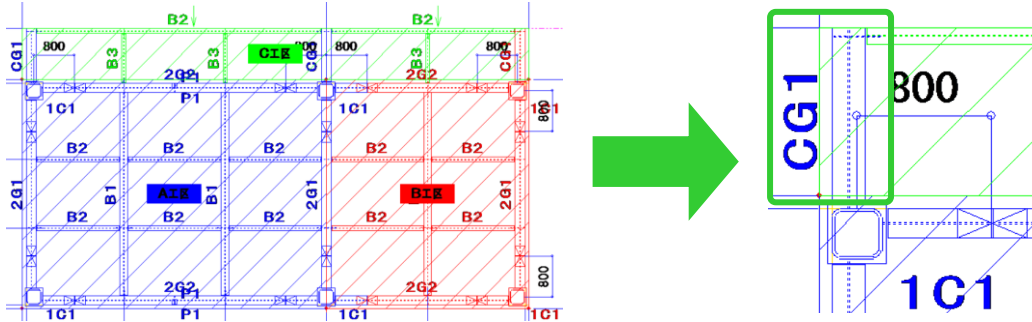


個別に工区を設定したい！

個別指定を使用すると個別に工区設定が可能です。

【工区】 - 【入力】 で工区を設定した場合、範囲選択時に範囲内に含まれた製品が一括で工区設定されます。

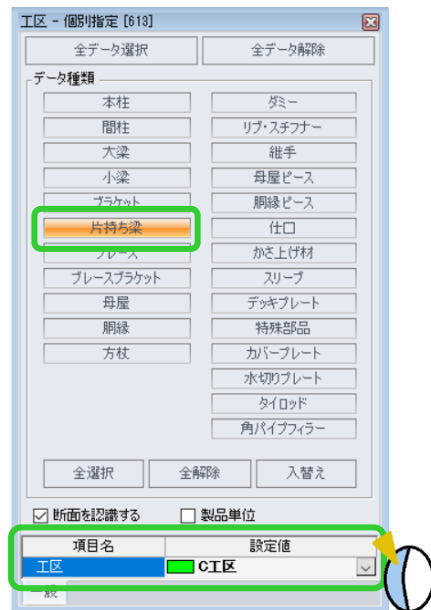
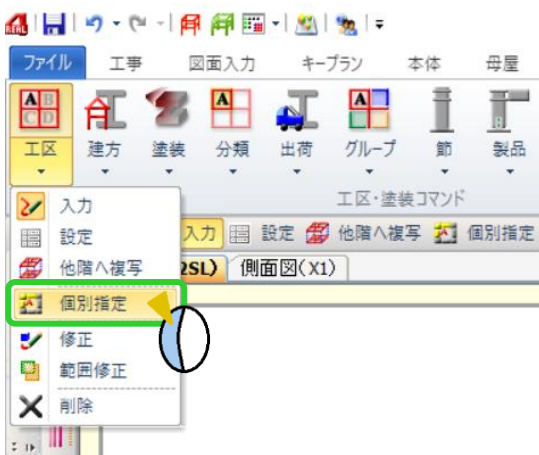
例) 柱が A 工区の場合、C 工区の範囲にあって柱に溶接する片持ち梁は A 工区に含まれます



範囲選択ではなく個別に工区を設定したい場合や、製品の一部を【入力】で設定された工区とは別の工区に設定したい場合は、【個別指定】で個別に工区を設定します。

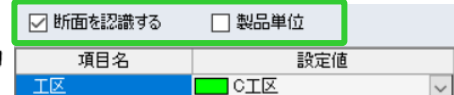
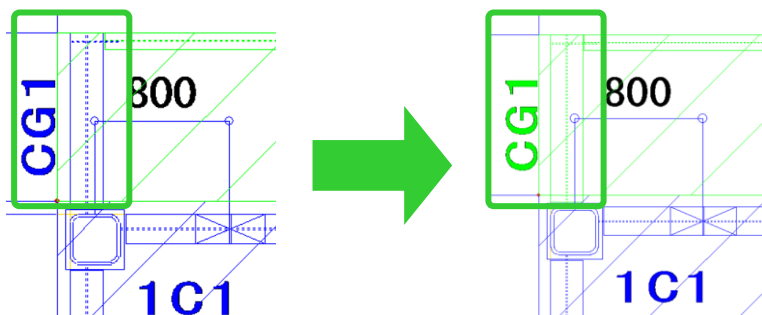
【工区】 - 【個別指定】をクリックし、入力シートで設定したい工区を選択します。

【データ種類】で選択している鋼材や部品のみ配置画面上で選択できるため、配置画面上で選択し辛い場合は、選択したい鋼材・部品のみ【データ種類】で選択してください。



配置画面上で個別に工区設定したい鋼材をクリックし、四隅の☑ をクリックして設定します。

例) 片持ち梁 CG1 をクリックした場合、片持ち梁 CG1 が A 工区から C 工区に変更されます。

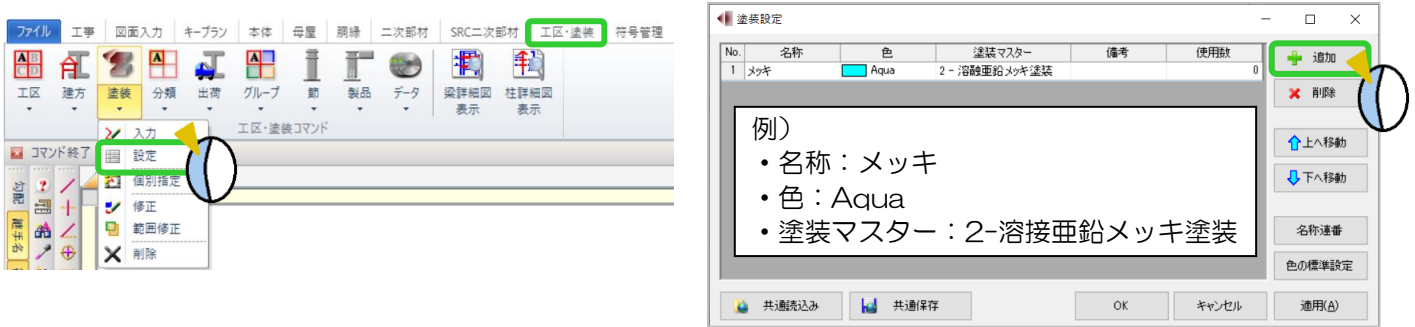


- 断面を認識する
☑ を入れると、鋼材の断面も選択できます。
- 製品単位
☑ を入れると、製品単位で選択します。
今回のように鋼材や部品単位で選択したい場合は☑ をはずしてください。

メッキ塗装の設定をしたい！ 塗装範囲を設定します。

【工区・塗装】 - 【塗装】 - 【設定】 をクリックします。

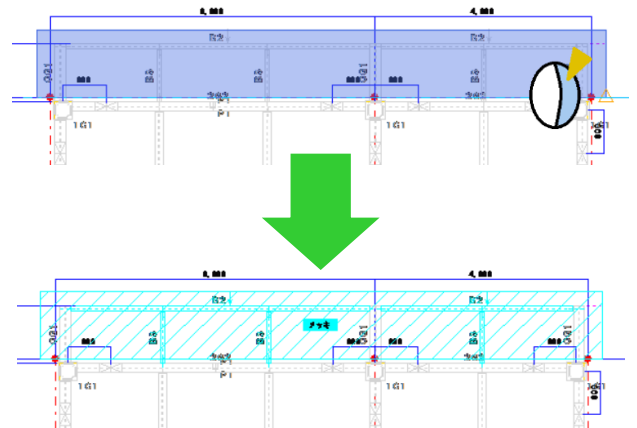
【追加】 をクリックし、名称・色・塗装マスターを設定し、【OK】 をクリックします。



【塗装】 - 【入力】 をクリックし、入力シートを設定します。

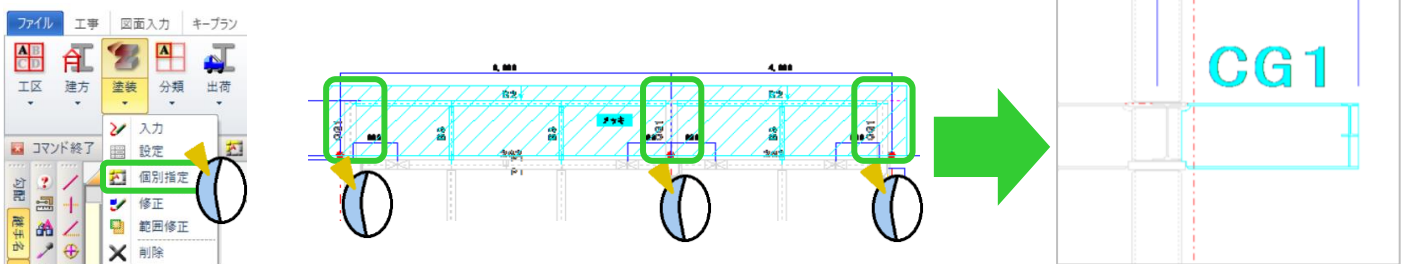
図面上を右クリックでドラッグし、塗装範囲を選択します。

右図、メッキ範囲に入った底部分の鋼材が選択されます。



片持ち梁は溶接する親部材の柱を参照するため、メッキの設定になっていません。

【塗装】 - 【個別指定】 で片持ち梁 CG1 をクリックし、設定します。



管理資料の【集計表】 - 【部材集計表】 で表面積で塗装面積が確認できます。右側の絞り込みで【メッキ】を選択し、【部材集計表】を出力すると、メッキのみの表面積(m²)が確認できます。

塗装名には【設定】で入力した名称が表示されます。



メッキ塗装時のガセットスカロップ形状を変更したい！ パラメーターで設定します。

【パラメーター】 - 【データ作成】 - 【34.柱、梁作成関連】 - 86) 柱ガセットスカロップまたは 87) 梁ガセットスカロップ を開きます。

項目名称	設定値
68 公差制限 (mm)	2
69 下端処理制限位置	1 - 板最狭部
70 下端処理制限 (mm)	100
71 下端処理オフセット (mm)	0
72 上側認識用表記	1 - Δ
73 ガセット 上側認識用カット幅	【1 - なし, 0, 1 - なし, 0】
74 ガセット 端部の入り	【75, 201, 5, 10, 10】
75 上ずきま (mm)	0
76 下ずきま (mm)	2
77 上コーナーR (mm)	10
78 下コーナーR (mm)	10
79 上部コーナーR (mm)	10
80 溶接スカロップ	
81 現場溶接スカロップ	
82 突合せ溶接スカロップ	
83 ノンスカロップ切り落とし幅 (mm)	0
84 ノンスカロップ切り落とし高さ (mm)	0
85 スカロップ形状判定幅	100
86 柱ガセットスカロップ	
87 梁ガセットスカロップ	
88 飛行機スカロップ	

変更したい項目をクリックし、右側の ボタンをクリックします。

例：87) 梁ガセットスカロップの場合

メッキ塗装形状で【1-スカロップ】を選択し、【径】でスカロップの径を設定します。

ウェブ、フランジサイズ範囲値

ウェブ幅1	ウェブ幅2	フランジ幅1	フランジ幅2
250	650	125	250

指定値1 以下 (WH ≤ 250 / FH ≤ 125)	指定値1より大指定値2未満 (250 < WH < 650 / 125 < FH < 250)	指定値2以上 (650 ≤ WH / 250 ≤ FH)
通常塗装形状 4-コーナーR	通常塗装形状 4-コーナーR	通常塗装形状 4-コーナーR
径	径	径
部材のRを使用 2-使用する	部材のRを使用 2-使用する	部材のRを使用 2-使用する
メッキ塗装形状 1-スカロップ	メッキ塗装形状 1-スカロップ	メッキ塗装形状 1-スカロップ
径	径	径

※ 直角スカロップRは形状が「直角スカロップ」の場合に使用します。
 ※ 位置はメッキ塗装形状が「2-穴」の場合に使用します。
 ※ 部材のRを使用する場合、「プラスする指定値」を加算して径を決定します。

また、メッキ塗装形状で【2-穴】を選択するとメッキ時にガセットに穴を開けることができます。

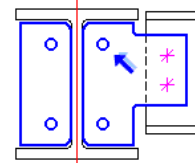
ウェブ、フランジサイズ範囲値

ウェブ幅1	ウェブ幅2	フランジ幅1	フランジ幅2
250	650	125	250

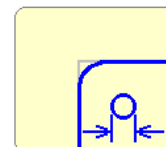
指定値1 以下 (WH ≤ 250 / FH ≤ 125)	指定値1より大指定値2未満 (250 < WH < 650 / 125 < FH < 250)	指定値2以上 (650 ≤ WH / 250 ≤ FH)
通常塗装形状 4-コーナーR	通常塗装形状 4-コーナーR	通常塗装形状 4-コーナーR
径	径	径
部材のRを使用 2-使用する	部材のRを使用 2-使用する	部材のRを使用 2-使用する
メッキ塗装形状 2-穴	メッキ塗装形状 2-穴	メッキ塗装形状 2-穴
径	径	径
位置	位置	位置

※ 直角スカロップRは形状が「直角スカロップ」の場合に使用します。
 ※ 位置はメッキ塗装形状が「2-穴」の場合に使用します。
 ※ 部材のRを使用する場合、「プラスする指定値」を加算して径を決定します。

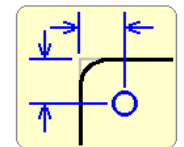
穴



【穴径】



【穴位置】

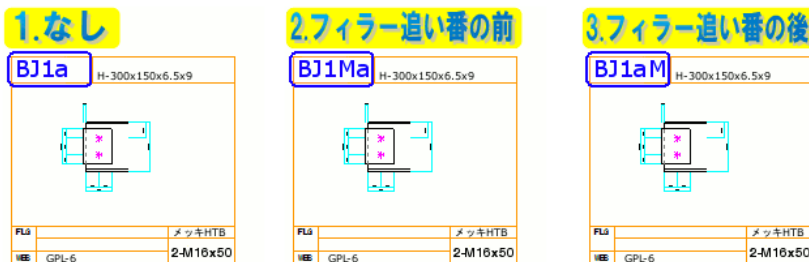


メッキ塗装の継手を区別できるように自動で『M』と付けたい！ パラメーターで設定できます。

【ファイル】 - 【パラメーター】 - 【データ作成】 - 【34.柱、梁作成関連】 - 14) メッキ塗装時の追加記号 で設定します。

項目名称	設定値
10 フィラー処理の制限(mm)	1
11 フィラー処理時の追い番	2 - あり(A,B,C...)
12 ガゼットの追い番	1 - なし
13 メッキ記号	M
14 メッキ塗装時の追加記号	1 - なし
15 エレクション通し板の縁	1 - なし
16 柱剛継手基準位置	2 - フィラー追い番の前
17 梁剛継手基準位置	3 - フィラー追い番の後
18 垂直ハンチ外基準	2 - 柱面
19 仕口に取り付くピン梁の位置	2 - 接続部材面
20 垂直ハンチプレート展開 ロール材	1 - なし
21 垂直ハンチプレート展開 ビルド材	4 - プレート展開
22 鋼材・三角プレート位置(mm)	30
23 鋼材・プレート2枚位置(mm)	30
24 ウェブハンチ設定	【16, 0.4, 0.3】
25 垂直ハンチ合せ(mm)	125

メッキ塗装時の追加記号の位置を設定します。



継手にフィラーが入っている場合は、11) フィラー処理時の追い番 を参照して継手名にフィラーの追い番を付加します。

14) メッキ塗装時の追加記号 では、メッキ記号『M』をフィラーの追い番の前・後どちらに付けるのか設定します。

11) フィラー処理時の追い番 で『1-なし』を選択してフィラー処理時の追い番が付加されていない場合、もしくは継手にフィラーが入らない場合は 2-フィラー追い番の前・3-フィラー追い番の後のどちらを設定しても同じ継手名になります。



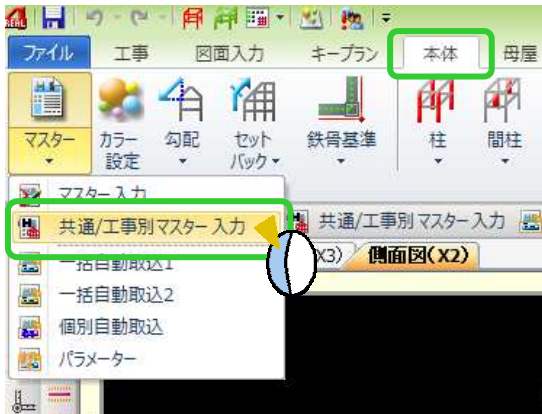
メッキ塗装の継手に付ける追加記号『M』は、13) メッキ記号 で任意で変更できます。

項目名称	設定値
7 継手算入方法	2 - 上節側
8 長さ計測位置	1 - 仮想点
9 フィラー処理	2 - あり1
10 フィラー処理の制限(mm)	1
11 フィラー処理時の追い番	2 - あり(A,B,C...)
12 ガゼットの追い番	1 - なし
13 メッキ記号	M
14 メッキ塗装時の追加記号	1 - なし

**塗装入力でメッキ設定した際のボルトを自動でメッキにしたい！
メッキボルト時、首下長さを5mm加算したい！**

ボルトマスターでボルト種類と首下長さの設定ができます。

【本体】 - 【マスター】 - 【共通/工事別マスター入力】 をクリックし、【ボルトマスター】 を選択します。



【メッキボルト】 タブをクリックします。

メッキ塗装する範囲のボルトを『メッキHTB』に変更したいので【現場ボルトの選択】のリストより『メッキHTB』を選択します。



また、首下長さへ5mm加算したいので
同じ【メッキボルト】タブにある

【現場ボルトの首下長さ調節値】へ5と入力して下さい。

これで、塗装範囲でメッキ指定した部分の現場ボルトがメッキHTBに置き換わり、首下長さも5mm加算した長さで計算します。

今後の工事にも反映させたい場合は、共通ボルトマスターも同様に変更してください。



継手基準図を作図すると、同じ継手名でTCとメッキHTBのものが2種類作図されます。継手基準図にメッキ記号を追記したい場合は作図パラメーター - 柱、梁データ作成関連 - 14)メッキ塗装時の追加記号 を設定してください。



メッキボルトのみ穴径を+3mmにしたい！ ボルトマスターで個別穴径設定ができます。

SFシステムメニュー画面から【ボルトマスター】を開きます。



【ボルトマスター 基本情報】でメッキボルトを選び、【詳細設定】をクリックします。

【詳細設定】 - 【穴径】に
穴サイズ (ボルト径+3mm) を入力します。
OKで詳細設定を閉じます。

【ボルトマスター 基本情報】のメッキボルトを詳細にし、保存して終了します。



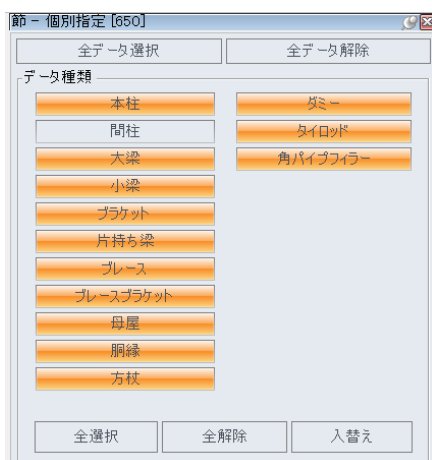
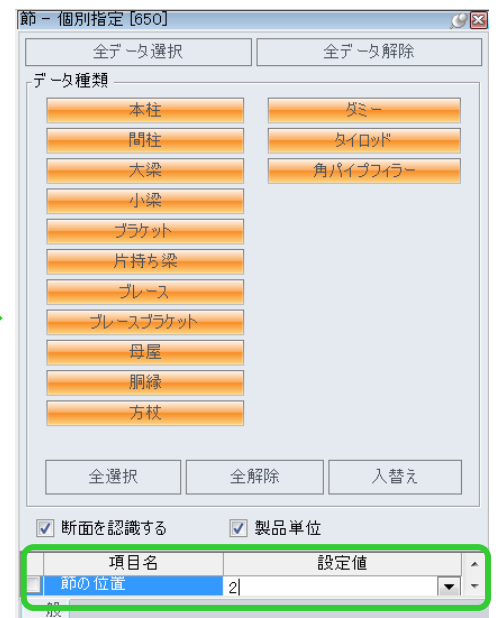
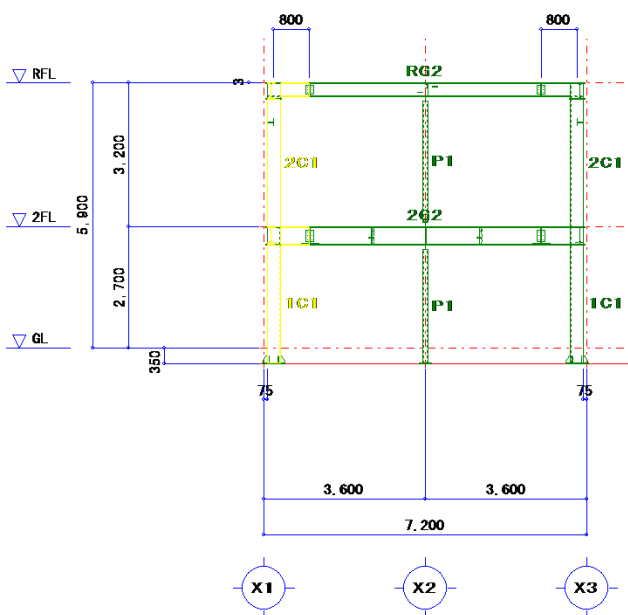
ボルト詳細設定を使用する際、穴径以外にも詳細設定を参照しますので、首下長さ等も設定/確認が必要となります。

柱の節を任意で設定したい！ 工区・塗装の節で設定できます。

【工区・塗装】 - 【節】 - 【個別設定】を選択します。



節を個別に設定したい柱を選択し、入力シートの【節の位置】に設定したい節番号を入力します。



全データ選択 / 全データ解除

入力されている部材の全データ選択と解除を行います。

【データ種類】

選択データの絞り込みを行います。

選択色（オレンジ）になっているデータ種類の選択が可能です。

クリックするとグレーの状態（例：間柱）になります。

選択色になっていないデータは全データ選択やマウスでのデータ選択はできません。

全選択 / 全解除 / 入替え

データ種類の全選択・全解除・選択の入替えを行います。



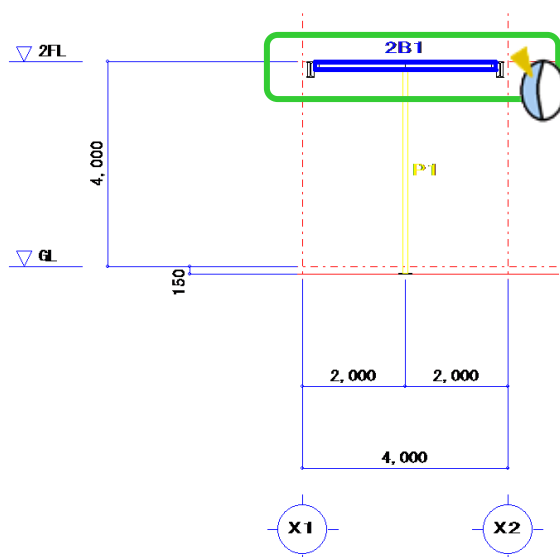
製品符号を梁の鋼材符号にしたいのに
間柱の鋼材符号になるので変更したい！

代表部材指定で設定できます。

【工区・塗装】 - 【製品】 - 【代表部材指定】 を選択します。



親にしたい梁をクリックします。



代表部材を梁にしたことで、製品符号の認識が梁の鋼材符号に変わります。

(作図パラメーター 6.軸組図 - 37) 間柱符号・40) 梁符号が#2 (#3) の場合)

※#2：鋼材符号名、#3：製品符号名

